

令和4年度 部局経営目標（達成状況）

年度	令和4年度	作成日	令和5年3月31日	
部局名	美甘振興局	部局長名	今石 健司	
(1) 部局の役割・使命（ミッション）・経営方針				
<p>1. 災害に強いまちづくり【No.11:住み続けられるまちづくりを】 市民の安心安全な暮らしを守るため関係機関・団体と連携を密にし、防災意識の向上と地域連携を図り、地域防災力の強化を図ります。</p> <p>2. 生涯を通じた健康づくりの推進【No3:すべての人に健康と福祉を】 持続可能な地域社会を実現するための基本となる健康づくりに、各団体等との連携を図りながら取り組みます。</p> <p>3. 地域の強みを活かした地域振興【No11:住み続けられるまちづくりを】 歴史、文化、風土、景観など地域の強みを活かした市民主体の振興事業や特産品を活用した商品開発などの地域内経済循環を推進し、豊かで自立した農山村の実現及び来訪者・関係人口の増加を目指します。</p> <p>4. 移住・定住の促進【No11:住み続けられるまちづくりを】 移住者や関係人口獲得など、持続可能なまちづくりを目指す地域団体等の活動を支援します。</p> <p>5. 地域の特性を生かした産業振興【No9:産業と技術革新の基盤をつくろう】 豊かな地域資源（風習文化・伝統工芸・自然景観・食文化・農林畜産物等）が次世代に引き継がれるようにブラッシュアップし、観光事業など産業に積極的に活用していくことで地域の魅力を全国に発信し、さらなる交流・定住人口の増加を図ります。</p> <p>6. 地域の文化力の向上【No4:質の高い教育をみんなに】 自然・民俗の歴史を次世代に伝えるために蓄積するとともに、新たな文化及び芸術の創造に取り組み、心豊かな地域を目指します。</p> <p>7. 効率的な「市役所」の経営【No11:住み続けられるまちづくりを】 常に市民目線に心がけ、市民の身近な行政窓口として、親切・丁寧な対応に努めます。「やるべきこと」「できること」の精査を行い長期的展望に立った戦略的行政経営をおこないます。</p> <p>8. 行政財産の有効活用【No.11:住み続けられるまちづくりを】 市民の共有財産である「行政財産・公共施設」について、一層の有効活用のため、地元の意向を把握しながら、管理運営形態や複合的な利用手法を検討します。また、地元協議やHP等での情報発信も積極的に実施します。</p>				
(2) 事業成果目標		指標名及び目標値		
1-① 自主防災組織の強化 美甘地区の各コミュニティ単位の自主防災組織や愛育委員等各団体を中心に地域の課題を共有、防災マップ点検、避難所設置、運営訓練を含めた連絡会議を実施し、新型コロナ禍での運営方法や高齢者対応なども加え、課題解決にむけ地域で支えあえる体制による地域防災力の育成、向上を図ります。		指標: 地域避難訓練、防災連絡会議		
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	2回	4回	自主防災の2組織が消防署と連携し訓練会を実施。また1組織が炊き出し訓練、1組織が備蓄品や機器点検を実施。今後も情報提供等により連携を深めていく。	組織設立から5年以上経過し、役員も変更。改めて支援事業や活動事例を周知し、質の高い訓練となるようサポートを行う。
2-① 健康づくりのための実践活動支援 高齢化が進む美甘管内における持続可能な地域社会を実現するため、地域住民の健康づくりを目的として、元気な笑顔みかも21実行委員会や愛育委員会、栄養改善協議会等が中心となって健康づくりのための活動の定着を図ります。 また、健康ポイント事業への参加を促すことで、健康診査やがん検診の受診率を向上や、スポーツ活動等への促進も進め、健康意識の向上を目指します。		指標: 健康ポイントカードの新規交付者数		
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	30人	41人	今年度から開催し始めた健康えがお教室(月1回)やスポ推主催の美甘地域リフト大会などで健康ポイント事業への参加を促した。結果、目標は達成した。	事業開始4年目で交付数は116人。美甘地域の20歳以上の12.5%にあたるが、ポイント付与率が(R3)82.3%(R4)48.9%であった。

3-① 地域の強みを活かした地域振興 これからの美甘地域の振興を若い世代が中心に考え、自分たちがどう活かすかを、地域の意欲ある青壮年層や出身者等を中心に議論し、地域の「声」を「事」として行動できる体制、人材づくりに繋げていきます。 ワカモノアクションによる地域づくり事業の企画運営 3回（夏まつり、ふるさとまつり、文化祭） みかもっとシリーズイベント（ミライ会議のアイデアを地域若手中心に企画、運営し美甘の拠点整備を議論）3回	指標:ワカモノアクション企画実施			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	3回	3回	耕作放棄地の対策の1つとして獣害を受けにくいとされるトウガラシの栽培実証を実施。今後も1つ1つの課題に対し、市民と連携し解決に向けた取り組みを推進していく。	新たな地域資源を目指し、栽培品の質向上や関係者の増加に向けた推進が必要。
4-①コミュニティ・地域づくり(地域自治、協働、経済活動) 美甘地域では高齢化率が53.5%超え、通院、買い物など運転が困難な方の交通手段確保が課題となっている。 美甘地域においてもデマンド交通の検討、ドアトドア等のタクシー運行等が必要となっていくため、美甘地域に適した運用、運用形態をどうしていくか議論を進めるため、地域での検討委員会等を立ち上げて地域議論を活性化させる。	指標:課題検討会議			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	4回	4回	優先課題であった配食サービスについて、課題解決の仕組みを検討し、1月から実施。また、月1回の運動教室にも移動販売を合わせて実施し、買物機会を創出。	様々な地域課題について、各々に何が出来るかを考え議論する必要がある。また、地域住民の取組に行政の十分な伴走支援が必要。
5-①地域の特性を生かした産業振興 クリエイト菅谷の指定管理者と地域の連携により、食堂運営の強化など、新たな事業展開を実施することで、従来の県南からのファミリー層の利用者だけでなく、コロナ後の小中学校の体験学習、美甘ドームを活用したイベント招致等の営業を実施するなどして利用者の拡大を図っていきます。地域の人材連携、地域の産品活用の拡大を推進します。	指標:利用者数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	12,000人	7,388人	基本的なサービスや施設管理に伴う顧客満足度の低下のほか、外的な要因の変化も影響し、目標値の約半分、前年度の6割まで減少した。	指定管理者が行うサービスや施設管理のマネジメント強化、顧客開拓に向けた企画・プロモーション強化、地域の人・物を活かした施設の魅力づくりを支援する。
5-② 地域の特性を生かした産業振興 廃校活用による6次産業化拠点施設で加工する商品及びクリエイト菅谷の指定管理者の新たな加工事業について、事業者と連携し、加工製造強化、販路開拓・拡大のサポートを推進する。 ・ヒメノモ子の生産拡大については、高齢化による作付け者減少も見られることから、真庭型循環農業の活用と、担い手への集積と農業技術を活用した省力化や中山間直接支払交付金事業の協定の合併による集積。 野菜、クリエイトでの加工品（美甘おこわ等）のまにわ君を利用する貨客混載出荷等の検討を行う。	指標:美甘地域ヒメノモチ作付面積			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	36ha	39ha	高齢化等による担い手不足に伴い水稲作付面積が減少する一方で「ヒメノモチ」の作付け面積は増加しており、地域にとってブランド商品として浸透してきている。	新たな商品開発や販路拡大。

6-① 地域の文化力の向上 美甘図書館が地域に愛され、気軽に立ち寄れる場になるよう、環境づくり雰囲気づくりを行い、利用者ひとりひとりのニーズに対応したサービスを提供できるように取り組みます。 また、豊かな感性や豊富な知識が養われるよう、本の紹介や読み聞かせをこども園や小学校で実施するほか、地域振興事業とも連携して親子や利用の少ない世代にも向け地域文化交流施設としての図書館を目指します。	指標：実質貸出利用率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	9%	7%	利用者の定着により貸出冊数は維持しており、小学校への配本再開などに取り組めたが、人口減少や高齢化の影響もあり、新規利用の開拓はなかなか成果が出ていない状況にある。	地域の歴史となる記録の収集・発掘など地域図書館としての基本機能を充実させながら、あらゆる人々が訪れやすい「居場所」として、雰囲気づくり、きっかけづくりに取り組む。
7-① 効率的な「市役所」の経営 美甘振興局は、地域住民が利用しやすい地域のほぼ中央に位置し、金融、図書館、診療所と地域機能が集約される保健文化センターとして機能しており、毎日多くの団体等が利用しています。今後も、さらに地域住民が身近に利用でき、広く親しまれるワンストップ窓口として、施設の利用促進はもちろん、高齢化地域でもあり、身近な相談窓口としていきます。	指標：利用者数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	2,500人	3,169人	実績値は会議室等利用者数であるが、窓口等の来庁者を含めると目標値を上回る。高齢者の身近な相談窓口としても重要な役割を果たして。	施設や機械設備の老朽化がみられる箇所があり、更新することでより安心・安全に利用・来庁できる施設を目指す。
8-① 管内公共施設の有効活用及び効率的運営の推進 公共施設管理計画等の方針に沿い、管内施設の効率的な運営、計画的な解体、集約について、地域での活用策を地域づくり委員会等で議論を実施します。	指標：地域検討会議			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	4回	2回	施設のハード面、利用方法などのソフト面に加え、他の施設との関係性、地域の思いを加味しながら、時間をかけて検討している。	地域の将来像も視野に入れながら、本当に必要とされる公共施設群となるよう整理・調整する。